

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3372300537		
法人名	合資会社 中藤		
事業所名	グループホーム 青い鳥①		
所在地	備前市吉永町南方652-1		
自己評価作成日	平成22年08月10	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障害者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成22年9月27		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

季節感を考え 散歩を出来るだけ 取り入れて 外部の空気に ふれあうように 努力しています。運営会議も 定着し 地区等にも 施設の状況を わかってもらえるよう 努力しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

平成15年4月より事業開始され、約7年利用者中心のケアを常に念頭に置きながらの運営をされています。平成18年地域密着型サービス事業所となつてからは、地域とのつながりを重視し、地域の中で暮らすことの意味を考えながらの活動を実践されていきました。経営者の介護に対する思いを、管理者をはじめ職員が受け止め、現場のケアに活かし日々業務に携わっておられました。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭の延長、その人らしい生活のリズムを考え、今まで使用していた、衣類・寝具・食器を使用してもらっています。	経営者の高齢者介護に対する思い、地域社会との連携を重視した考えを大切にしたい理念を、職員が共感・共有が出来ていました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の溝掃除等、奉仕活動に参加したり、ホームの行事のチラシを配布し、職員が、地区を回って参加を呼びかけています。	地域との関係改善に受身ではいけないとの前向きな思い出で努力・前進されていました。地域の行事にも参加され本当の地域の一員となれるよう努力されていました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事があるときは、地域の人にホームに来ていただき、利用者の方とお話をしてもらったり、バザー等に参加していただき、理解して頂くようにしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を行っています。区長さん、民生委員、家族、職員で行い、情報交換・意見交換をしています。	運営推進会議も定期的開催が出来ているようでした。運営推進会議を活用し行政との関係も良いようでした。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村とは、常に連絡を取り合い、情報交換・相談をして、協力できる様にしています。	小さな市だからこそできる、細やかな関係作りが出来ているとのことでした。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正しく理解はしているが、なるべくわかってもらうように、利用者の立場にたって、職員もケアに取り組んでいます。	管理者を先頭に、身体拘束しない支援への認識と、実践に努力されていました。	身体拘束をしない支援に取り組まれています。研修会への参加職員教育の観点からも今以上の努力に期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講習会等に参加する機会を持っている。また、ホーム全体でも注意を払う様に、職員全体で話し合いの場を設けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	申し出があれば、利用できるようにしています。代表者が対応しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族より開かれたら、いつでも説明できる様にしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回、運営推進会議を設けている。玄関に意見箱を設けています。	利用者家族の意見をいただくためにいろいろな工夫をされていました。運営推進会議への家族参加機会をなるべく多くして意見を出していただきやすい環境づくりにも努力をされていました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、リーダー会議及び全体の会議を開き、職員の意見を聞いてもらう場を設けています。個々の意見をいつでも聞いてもらえる、体制にしています。	職員の意見を反映していくためスタッフ会議で意見を聞き運営に反映せれています。	今の人数だからこそ対応できている場面があると思います、今後の展開の中でも現状が維持できるように、新たなシステムの構築に期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社側、職員側のお互いが歩み寄り、働きやすい職場を作るよう努力しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	急に退職される方がおられたり、新しい職員さんが来られたり、外での研修は難しい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	備前市内のグループホームとの交流を始め、お互いに行ったり来たりして、勉強させて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の訴えを見守り、介助しながら、傾聴し、個人にあったサービスを職員皆で、話し合って支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の困っていること、不安なことをお聞きして、情報収集をして、ご家族と話し合い、よりよい関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族と、よく意見交換をして、ご本人が、いかに安心して生活できるように支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に同じ食事をし、散歩やレクリエーションをしたり、個々に、出来る範囲のことをして頂く様にしています。いつでも介護者の立場に立って。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月1回「お知らせ」を送付し、1ヶ月の生活、健康を理解していただき、様子の変化を細かく報告するようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・知人・孫の面会があれば、一緒に居室にてお話したり、お茶を飲んで頂いて、大切にしてきた関係継続支援しています。	家族、ご友人、地域との交流、馴染みの関係が継続されている支援がうかがえました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の言い争いになった場合、間に入り、話を中和して、寄り添って話をする。レクリエーション等を通じて普段から仲良くしてもらうようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても、家族と連絡を取り合っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が出来ること、出来ないこと、危ないことが、個々によって違うので、見極めて、全員で対応しています。	本人本位を聞き出す支援をしながら生活のあらゆる場面で実践されていました。また、家族ともよく相談をされているようでした。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族が来所されたときの話や、色んな方向から、把握するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族よりの情報提供に基づき、1週間程、様子・観察の上、ケアプランを作成しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングをもとに、カンファレンスを実施し、気になることなど意見を出し合い、介護計画を作成しています。	本人・家族の以前の生活を考慮し、現場職員の意見、CMの意見、管理者の意見を尊重した多面的な観点から計画作成が出来るように努めておられました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を細かく記録して、気づいたこと工夫を、個別記録して、職員間で話し合い、計画の見直しに活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人個人変わった様子があれば、すぐに事務所内で話し合い、家族の方に様子を報告しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	グループホーム近くのお寺に散歩する。近くの民家のお花・畑がとてもきれいで、心が癒されます。夏祭り・クリスマス会等、地域と交流が持てるようにしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族が受診に行けない、行かれない時は、職員対応にて、月1回受診。急なときも、その都度対応しています。	家族の協力を常にお願ひし事業所だけが頑張る支援でなく、家族・事業所が連携の取れた医療支援がなされています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	家族・職員・ケアマネジャーと相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援し、看護師に相談し受診に付き添っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時・退院時には、医療機関と情報交換を行い、家族と密な連絡をし、適切な医療を行っています。その都度、様子を見に行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族と話し合いながら、随時確認・連絡を行いながら、医療との連携を図っている。事務所で可能な対応について説明している。	終末期の対応は、現状ではなかなか大変であるとお答えでしたが、出来ることは検討しながら対応していきたいとの思いも、持たれていました。	現状ではなかなか期待される対応に答えるのは無理があるとの返事ですが、職員の質向上の観点からも、前向きな対応に期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生に備えて、経験ある職員が指示し、速やかに対応しえます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回、防災訓練をし、消火器の設置場所を掲示したりしている。スプリンクラーの説明も、職員が何度も説明を聞いています。	災害対策訓練が実施されました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常の利用者への声かけや援助は、場面に合わせて、さりげなく行い、本人の意思や行動を大切にするように配慮しています。	職員レベルに差があるようですが、お互いに研鑽に努め利用者本位のケアに努めておられました。	経験年数などの差があり、なかなか差を無くすことは難しいと思います。チームケアの観点からも職員相互の関わりを今一度検証し更なるケアの質向上に期待いたします。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洗濯物は、利用者ご本人でたたんでもらい、出来る人は、自室のタンスに入れてもらっています。タンスの中の整理整頓も出来るだけ自分でしてもらっています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりを優先するのではなく、利用者一人ひとりのペースを大切に、その日どのように過ごしたいか、なるべく本人の希望にそって支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る人はなるべく、歯磨き・洗顔・髪をきれいに整えることをしてもらっています。服装も、季節にあったものを選んでもらい、支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しく皆と一緒に食事をしています。一人ひとりの力を活かしながら、見守り・介助し、準備も出来ることは、お手伝いしてもらい、食事を楽しくしています。	地元の食材を活用して手作りの食事が提供されていました。利用者様の能力に合わせた食事支援が実践されていました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じて、食べる量も確保し、水分補給もその人に応じてそのときの状態で支援しています。ご自分で食べれない人は、ゆっくりと時間をかけて介助しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝は歯磨き、入れ歯は外してきれいに洗い、いつも清潔にしています。週に1度、口腔ケアも消毒して、清潔に支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々にあった紙パンツ・パット類を使用して、定時に声かけをして誘導しています。訴えない方は、日ごろの排尿・排便チェック表を参考に、トイレ介助を行っています。	信頼関係を大切にした排泄介助がなされていました。個々の特性に配慮し、しかし共同生活であることにも、心配りしながら支援していました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を確認しながら、水分摂取を勧めたり、飲み物やおやつ等の工夫をしています。本人の状態を観察して、看護師や医師に相談しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調観察を行いながら、精神面にも配慮して、拒否のある方にも、声かけ・誘導を工夫して、無理強いしないように心がけています。	個々に沿った入浴支援がなされて安全確保観点からも必要に応じて2人対応もされました。体調等の都合、状態に似合った支援が窺えました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、リズム体操・風船バレー・歌をうたうなど、レクレーションで活動的に過ごせるようにしていますが、本人の体調意思により、自由に休息が取れるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイルして、全職員が確認できるようにしています。変更時は、詳細に体調観察を行い医師に報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意なこと、好きなことを楽しんで頂けるように支援しています。ご本人に、無理の無いように、個々の出来る手伝いをして頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、近所への散歩、畑を見に行ったり、お花をみたり、お花見、紅葉狩り、お祭り等の行事、地域の敬老会、買い物等、外出できるよう機会を作っています。	利用者・職員が共に楽しめる外出支援が出来る様にいろいろな企画(外食、ドライブ、お花見、もみじ狩り等)を立て、実践されていました。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	移動販売のパン屋さんで、自分の好きなものを、職員が買い物をしてあげています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、職員が電話をかけたり、ご本人の用事を伝えてあげています。電話で不安が軽減され、落ち着かれています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者さんと一緒に作った季節の壁画等を貼ったり、行事の写真を貼ったり、利用者来訪者の目を楽しませています。	利用者様にとって、居心地のよい共同空間づくりが工夫されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ひとりになりたいときは、自由に居室に入れるように、介助のいる方は職員が支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前より使用していたものや、好きなご家族の写真を、ご自分の好みで飾り付けをされています。	馴染みの使い慣れた家具等を持ち込まれ、落ち着いた部屋づくりに心がけていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとり、わかりやすいように大きく名前を書いて貼ってあります。		